

# 哲 学 II

科目責任者 河 合 孝 昭

学年・学期 1 学年・3 学期

## I. 前 文

本講義では、「哲学する」とはどのようなことなのかを理解し、実践することを目的とします。講義の中ではさまざまな哲学者たちの考え方を紹介していきますが、重要なのは、哲学が対象とする具体的テーマについて自分自身で考えてみることです。哲学が扱うテーマはさまざまですが、本講義では「他者」や「私」といったみなさんにとってもっとも近い問題を主に取り上げます。本講義を通じて哲学的なものの見方に触れ、自分と他者との関係性を考える足がかりとして下さい。

## II. 担当教員

非常勤講師 河 合 孝 昭

## III. 一般学習目標

1. 哲学とはどのような学問であり、どのようなテーマを問題とするのかを具体的に理解する。
2. 哲学的なものを考えることにはどのような特徴があり、それは一般的な思考法とはどのような点で異なっているのかを理解する。
3. 現代に生きる私たちにとって、哲学的な問いが持つ意味を考える。

## IV. 学修の到達目標

1. 哲学的なものの考え方の特徴を理解したうえで、それを自分自身で実践する。
2. 哲学的な思考法を用いて自分の考え方を批判的に吟味し、ひとりよがりなものの見方に陥らないための思考法を身につける。
3. 自己 (= 私) と他者との関係性について考え、それを医師としての自分と患者としての他者との関係性に適用する。

## V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	11	11	水	4	「他者」の問題①：まなざしと他者	河 合 孝 昭
2		18	水	3	「他者」の問題②：他者とともにあることの意味	河 合 孝 昭
3		25	水	4	「他者」の問題③：言葉と他者	河 合 孝 昭
4	12	2	水	4	「他者」の問題④：他者との平和的共存の可能性	河 合 孝 昭
5		9	水	4	「私」の問題①：心身問題	河 合 孝 昭
6	1	6	水	4	「私」の問題②：自由意志	河 合 孝 昭
7		13	水	4	「私」の問題③：感情の本質	河 合 孝 昭
8		13	水	5	国家とは何か①：国家の起源をどう考えるか	河 合 孝 昭
9		20	水	4	国家とは何か②：国家と個人	河 合 孝 昭

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
10	1	20	水	5	生きることの意味と目的	河 合 孝 昭

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

レポート 70%

授業への参加度（出席状況）およびリアクションペーパーの内容 30%

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

特定の教科書は指定しません（適宜、資料プリントを配布します）。毎回出席して講義に真剣に耳を傾けて下さい。

参考図書はテーマごとに授業内で紹介します。

#### VIII. 質問への対応方法

質問は随時受けつけます。ぜひ積極的に質問してください。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに関するコメントをLMSを通じて伝達します。

## XI. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

## XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）